五條市立五條東中学校 「技術・家庭科」 技術分野シラバス 第２学年

【目 標】

◆「技術分野の目標」

技術の見方・考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

【3年間の学習内容】

「技術分野」

Ａ 材料と加工の技術

Ｂ 生物育成の技術

Ｃ エネルギー変換の技術 ＊２年次

Ｄ情報の技術 ＊一部２年次

【評価の観点・方法】

（１）「知識・技能」

実践的・体験的学習活動を通して，基本的な知識・技能を身につけているか，生活との関わりを理解できているか，定期テスト，実習や作品，レポートなどで評価します。

（２）「思考力・判断力・表現力等」

設計や製作活動における既得の知識・技術の活用状況や生活を工夫したり創造したりする能力を実習作品（クラウドにある製作中のデジタル作品も含む），レポート，定期テストなどで評価します。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」

単にノート提出や授業態度といった情動的側面や知識・記憶を問うものではなく，回路設計実習やプレゼンテーションなどへの知識･表現力･思考力等の応用や作品形状や方法の改善，実際の場面での課題解決の力について毎時間の学習の取り組み状況，実習課題，レポートなどで評価します。

＊ 通知表の評定について

上記の３観点における到達度の合計により，総合的な到達度として各学期と学年末に５段階評定を行います。各観点の比重は均等とし，その到達度は通知表にＡＢＣで記載されます。

観点別評価ＡＢＣの定義

Ａ 「十分満足できる」状況と判断されるもの

Ｂ 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

Ｃ 「努力を要する」状況と判断されるもの

５「十分満足できる」状況と判断されるもののうち特に程度の高いもの

４「十分満足できる」状況と判断されるもの

３「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

２「努力を要する」状況と判断されるもの

１「努力を要する」状況と判断されるもののうち一層努力を要するもの

技術分野　第２学年　指導・評価計画

	学習指導要領の項目	学習活動	評価項目
Ｉ学期	C（Ｉ）　生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ア 電気，運動，熱の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み。 イ 技術に込められた問題解決の工夫	TINKERCAD をつかった回路のシミュレーション実習(実習レポート) 期末考査	(知) 主 思判表 知・技
２学期	C（2）　エネルギー変換の技術による問題の解決 ア 安全・適切な製作，実装，点検，調整など イ 問題の発見と課題の設定，電気回路や力学的な機構などの構想と設計の具体化，製作の過程や結果の評価，改善及び修正 （3）　社会の発展とエネルギー変換の技術 ア生活や社会，環境との関わりを踏まえた技術の概念 イ技術の評価，選択と管理・運用，改良と応用	回路製作実習 マイクロビット電子回路実習 ブレッドボード等を利用した回路実習 はんだ付け実技 TinkerCAD を併用 抵抗・ダイオード・コンデンサ等の部品や整流回路の役割・特徴について 期末考査	主 知・技 思判表 主 知・技
３学期	D（Ｉ）　生活や社会を支える情報の技術 ア情報の表現の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み D（2）ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 ア 情報通信ネットワークの構成，安全に情報を利用するための仕組み，安全・適切な制作，動作の確認，デバッグ等 イ 問題の発見と課題の設定，メディアを複合する方法などの構想と情報処理の手順の具体化，制作の過程や結果の評価，改善及び修正 D（Ｉ）イ技術に込められた問題解決の工夫	マイクロビット＋電子回路実習つづき 「Lifeistech」HTML　CSS をつかったプログラミング実習または SCRATCH を使ったチャットプログラム実習 期末考査	思判表 知・技 思判表 知・技 主 知・技

技術･家庭科　成績Ｑ＆Ａ

Ｑ１　どのように観点別評価のＡ，Ｂ，Ｃの評価が決まるのですか？

Ａ１　教科で学習内容ごとに目標を設定しています。その目標に対する到達度に応じて ABC の評価をします。

到達度(%)	評価（観点別評価）
７０%以上	Ａ(十分満足できる)
４０%以上　７０%未満	Ｂ(おおむね満足できる)
４０%未満	Ｃ(努力を要する)

Ｑ２　「評定」とは何ですか　「評価（観点別評価）」とはどのように関係しているのですか？

Ａ２　「評定」はその教科の学習状況全体をまとめたものです。３種類の観点別評価を総括し，５，４，３，２，１の数値で示します。

Ｑ３　どのように５，４，３，２，１の評定が決まるのですか？

Ａ３　観点別評価の際に算出した「到達度」の平均値を求めることで五段階の評定を行います。

Ｑ４　観点別評価がすべて「Ａ」なのに，「５」にならないこともあるのですか？

Ａ４　評価Ａとなる到達度は「７０%以上」，評定５となる到達度は「８５%以上」ですから，すべての観点別評価がＡだったとしても，５にならないことはあります。以下の例をご覧ください。

例）オール「Ａ」でも「５」にならない　生徒αくんの場合

◆観点別評価の例

観点	到達度	観点別評価
知識・技能	76%	Ａ
思考・判断・表現	80%	Ａ
主体的に学習に取り組む態度	90%	Ａ

◆評定

到達度平均　（７５＋８０＋９０）÷３＝８２　　到達度平均　８２%なら

下表により 評定は４となります。

到達度(%)	評定
85%以上	5（十分満足できるもののうち，特に高い程度のもの）
70%以上　85%未満	4（十分満足できる）
40%以上　70%未満	3（おおむね満足できる）
15%以上　40%未満	2（努力を要する）
15%未満	1（一層努力を要する）

＊学期ごとのテストや課題の難易度により，この表の閾値より低い値とすることがあります。

Ｑ５　学年末の観点別評価（A･B･C）はどのようにしてきまるのですか。

Ａ５　１学期から３学期の各観点の到達度（%）の平均を，Ｑ１の表に照らして年間の観点別評価を決めます。

また学年末の３観点の到達度（%）平均をＱ4の表に照らして５段階評定がきまります。

（技術･家庭科においては，ある観点について，「１学期はＡ，２学期はＡ，３学期がＢだから　多いものをとって学年末はＡになる」というような評価はしておりません。）